

# 4月末の「歴史的転換点」に向けた相場展望：ドル円・ユーロ円・日経平均 の完全攻略マップ

レポート BY NOTEBOOKLM

2026/4/12

情報提供スリースタータードットジェーピー

## 1. はじめに：4月末に訪れる「究極の売り場」の全貌

現在のマーケットは、ファンダメンタルズとテクニカルが極限まで乖離した「最終局面」にあります。極限の円安と株高、これら全ての過熱したエネルギーが、4月末の「歴史的転換点（ビフォーアクション・ポイント）」に向けて収束しようとしています。

本稿で解説するのは、単なる予測ではありません。中東情勢という地政学リスク、日米欧の中央銀行の思惑、そして価格が吸い寄せられる「磁石」のような節目。これらがパズルのピースのように揃う瞬間、相場は「3段跳び」の論理で天井を打ち、猛烈なリバーストレード（逆張り）のチャンスを提供します。プロの視点から、この「究極の売り場」をいかに攻略すべきか、その完全なロードマップを提示します。

-----

## 2. 3つのターゲット数値：相場が目指す「真の天井」

相場反転の前には、必ず「達成感」を伴う価格の到達が必要です。以下の3つの数値は、市場参加者の心理を縛る強力な「磁石」として機能します。

- **ユーロ円：188.0円（エネルギー高騰による歴史上限）** 今回の「3段跳び」における第1ステージの主役です。原油・天然ガス価格の高騰が「実需の円売り」を加速させ、2008年の最高値を遥かに超えた未知の領域、188.0円への到達がトレンドのクライマックスとなります。
- **ドル円：162.7円（オーバーシュートの終着点）** 161.7円という2024年の政府防衛ライン（マグネット・レベル）を、最後の踏み上げで突破した際に出現するターゲットです。ユーロ円や株価に遅れて到達する「第2ステージ」のアンカー（重し）役を務めます。

- **日経平均：61,000 円（熱狂のクライマックス）** 欧州時間の高値を軽々と超え、全ての弱気派を焼き尽くした後に到達する未体験の領域です。ここが「円安＝株高」という相関性が崩壊する、リクイディティ・トラップ（流動性の罠）の入り口となります。

### 3. なぜ「円安なのに株安」が起きるのか？相場のねじれの正体

通常、円安は輸出企業の恩恵を通じた株高要因ですが、ユーロ円 188 円、ドル円 162 円といった水準は、すでに日本経済の受容限界を超えています。

1. **輸出主導型成長の限界とコストプッシュ・インフレ** エネルギー価格高騰を伴うこのレベルの円安は、もはや企業のメリットを「輸入コスト増による国内経済の破壊」というデメリットが上回ります。これは「悪いインフレ」であり、企業の収益力を根本から蝕む「負の相関」への転換点です。
2. **日銀のタカ派変貌によるバリュエーション低下** 過度なインフレを抑制するため、日銀は市場予想を裏切る「タカ派」へと変貌し、追加利上げというハサミを入れます。これが株価指数のバリュエーションを押し下げ、冷や水となります。
3. **「ゴムの理論」と爆発的巻き戻し** 現在の相場は、ゴムがこれ以上ないほどピンピンに伸び切った状態です。そこに「日銀の利上げ」や「イラン戦争終結」という\*\*ハサミ (Scissors) \*\*が入ることで、溜まったエネルギーは「エクスペロージョン (爆発)」を引き起こし、円高・株安への強烈な巻き戻しを誘発します。

### 4. 【完全保存版】4月末までのタイムスケジュール

時期・イベント	予想される相場の動き	具体的な戦略
4/15 米 CPI 発表	下振れにより米金利低下。株高・ユーロ高を誘発し、ユーロ円が 188 円へ先行。	ドル円を焦って売らず、まずはユーロと株の「第 1 ステージ」の伸びを確認する。
今週末 米国 SQ	ナスダック等の株価指数が上昇バイアスを維持。日経平均が高値を追う。	強いトレンドに逆らわず、ターゲット到達まで「売り」のエネルギーを温存。
4/20～24 ウォーシュ氏承認・イラン情勢	ドル高終了の意識と戦争終結期待が混在。ドル円が遅れて 162.7 円へ最終的な踏み上げ。	ターゲット周辺での**「両建て」による利益ロック**、または分割売りの開始。
4/27～28 日銀金	<b>【Xデー】</b> 追加利上げ決定。円安・	日本勢の動きに合わせ、クロス円と日経

融政策決定会合	株高トレンドを止める決定打となる。	平均の積極的な空売り（Aggressive Short）。
4 月末頃 イラン戦争終結	原油安・リスクオフ解除により、円高・株安のトレンド転換を決定づける。	**154.4 円（最後の防衛線）**割れを確認し、本格的な「追撃売り」へ移行。

## 5. 実践アドバイス：大勝負で負けないための「出口戦略」

歴史的な転換点での勝敗は、テクニカルな「入り方」と「リスク許容」で決まります。

- 「高値を結んだ切り下げ」を確認する技術** 最初の突っ込みで全力エントリーしてはいけません。1. ターゲット（162.7 円等）到達 → 2. 一時的な急落 → 3. 戻り試しの失敗（前高値を越えられない）という「高値の切り下げ」を確認してから、その高値にストップを置くのがプロの定石です。
- 166.0 円を想定したポジション・サイジング** 162.7 円は本命ターゲットですが、市場のパニックによる一時的な 166.0 円へのオーバーシュートは「想定内」として計算してください。ご自身の口座が 166.0 円到達でも致命傷を負わないサイズまで落とすこと。それがメンタルを安定させ、利益を最大化する鍵です。
- 154.4 円という「分岐点」の意識** 反転後の利確目安は 157.7 円～155.4 円ですが、本当の相場変容は **154.4 円** を割り込んでから始まります。ここを割れば景色は一変し、一時的な調整ではなく、長期的なトレンド転換としての「追撃」が可能になります。

## 6. まとめ：全てのピースが揃う瞬間を待つ

今回のシナリオは、今週の「株とユーロの先行」から始まり、月末の日銀会合でドル円がアンカーとしてターゲットに到達することで完結します。「CPI 下振れ→ユーロ円ゴール→日銀会合での全反転」という順序立てた「3 段跳び」を冷静に見極めてください。

安易な「早売り」は、最後のひと伸びに焼かれるリスクを伴います。高値を一度更新し、日本国内から「売り」のエネルギーが噴出するその瞬間まで、牙を研いで待つべきです。

全てのピースが揃った時、非対称なリスク・リワードを伴う巨大なチャンスが訪れます。ストラテジストとして、私はその瞬間を確信しています。冷静に、かつ大胆に、歴史的転換点を引きつけましょう。